

2019年12月24日

記者会見資料

## 私たちがIR(カジノ)誘致に 反対する理由

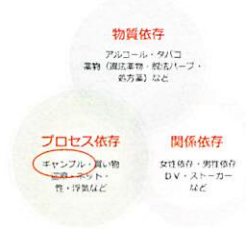
横浜市精神科医会  
一般社団法人 神奈川県精神科病院協会  
一般社団法人 神奈川県精神神経科診療所協会

1

## ギャンブル依存症(病的賭博)

さまざまなギャンブル  
への衝動が抑制できなく  
なり、社会的・経済的・心  
理的問題や対人関係の問  
題が生じているにもかか  
わらず、ギャンブルをや  
めることができなくなる  
疾患である

依存症の種類



2

## ギャンブル依存症(病的賭博)の症状 アメリカ精神医学会の診断基準(DSM-5)を改変

- 耐性:** 掛け金が増えていく
- 離脱:** していないと落ち着かなくなる
- 制御障害:** 減らすことやめることができない
- 渴望:** 頭から離れない
- 不快回避:** いやな気分を紛らわせるためにする
- 損失回避:** 負けを取り返そうと深追いする
- 後ろめたさ:** のめり込みを隠すために嘘をつく
- 社会機能障害:** 重要な人間関係や仕事を失う
- 経済的破綻:** 借金をするようになる

3

## ギャンブル地獄の二大症状 (森山成久先生による)

### 借金



### うそ

帝本産生: やめられない ギャンブル地獄からの生還(文庫版)、集英社文庫(2019)

4

## 日本におけるギャンブル依存症者数 (推計)

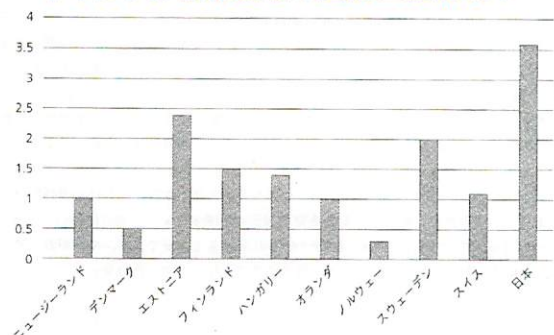
国立病院機構久里浜医療センターなどの研究班が  
2017年に行なった調査によると、**成人の3.6%**  
(約320万人)が生涯で1回はギャンブル等依存症  
の疑いと診断されると推計された。

1年間でみるとギャンブル等依存症の疑いと診断  
されるのは0.8%(約70万人)で、**最もお金を使  
ったのはパチンコ・パチスロ**で、いわゆる  
パチンコ・パチスロ依存は約57万人と推計された。

樋口進ら: 国内のギャンブル等依存に関する疫学調査(全国調査結果の中間とりまとめ):  
ギャンブル障害の疫学調査、生物学的評価、医療・福祉・社会的支援のありかたについての研究、  
障害者対策総合研究開発事業(2017)

5

## SOGS(SOUTH OAKS GAMBLING SCREEN)5点以上の ギャンブル依存症者の国別生涯有病率



SOGS: サウスオークス財団がギャンブル依存症の診断のために開発した質問表  
松下幸生: ギャンブル障害—現状とその対応—、精神医学 60:161(2018)

6

## カジノができることにより起こる問題

- ・ギャンブル依存症(以下 依存症)がさらに増える
- ・他の精神疾患も増える
- ・経済的破綻を来しやすい
- ・自殺との関連が大きい
- ・犯罪が増える
- ・家族への悪影響が大きい
- ・依存症治療が可能な医療機関・相談機関が少なく、治療には難渋する
- ・カジノがある地域では依存症の患者が増える
- ・カジノに近いほど依存症の患者が増える

7

## ギャンブルと自殺の関連が大きい

- ・ギャンブラーズ・アノニマス (GA) 参加者を対象とした調査で、自殺企図経験者が半数以上であった  
声沢健:ギャンブル依存症の自殺リスクはGA参加で予防できるか?、精神科治療学 32:1517(2017)
- ・ギャンブル依存症とギャンブル依存症者の血縁者の自殺傾向が高い  
Black d.w.et al.:Suicide Ideations, Suicide Attempts, and Completed Suicide in Persons with Pathological Gambling and their First-Degree Relatives, Suicide Life Threat.Behav 45:700(2015)
- ・自殺企図するギャンブル依存症者の多くは精神的問題を持つ  
Thon,N.et al.:Prevalence of suicide attempts in pathological gamblers in a nationwide Austrian treatment sample, Gen.Hosp.psychiatry 36:342(2014)

8

## ギャンブルにアクセスしやすいほどギャンブル依存症の患者が増える

- ・海外の研究:ゲーミングマシン数と問題ギャンブラーの割合には正の相関を示した  
Storer J,Abbott M,Stubbs J:Access or adaptation? A meta-analysis of surveys of problem gambling prevalence in Australia and New Zealand with respect to concentration of electronic gaming machines, Int Gamb Stud 9:225(2009)  
鶴岡孝介:データから考えるカジノ解禁、精神科 33:533(2018)
- ・アメリカの5州:人口あたりの宝くじ売上額が高いほど病的賭博疑いの有病率が高かった(正の相関まではなかった)  
Volberg RA:The prevalence and demographics of pathological gamblers:Implications for public health, Am J Public Health 84:237(1994)  
鶴岡孝介:データから考えるカジノ解禁、精神科 33:533(2018)
- ・ギャンブルの利用しやすさ、報酬の大きさなどがギャンブル行動の継続に重要な役割を果たす  
Hodgins DC,Stea JN,Grant JE:Gambling disorders, Lancet 378:1874(2011)  
松下幸生:ギャンブル障害-現状とその対応-,精神医学 60:161(2018)

9

## ギャンブルにアクセスしやすいほどギャンブル依存症の患者が増える

- ・賭博場の利用しやすさがギャンブル依存症の危険因子となる  
Johansson J,Grant JE,Kim SW,et al:Risk factors for problematic gambling:a critical literature review, J Gamb Stud 25, 67(2009)  
松下幸生:ギャンブル障害-現状とその対応-,精神医学 60:161(2018)
- ・自宅から3キロ以内にパチンコ店ができると、男性ではギャンブル依存症を疑われる状態になる確率が高まる  
後藤勲:毎日新聞、2018年2月28日東京新聞
- ・イギリスにおける大規模調査:ギャンブルのタイプとギャンブルの問題の関係は見いだせず、ギャンブルにどれだけ関与するかの方がギャンブル問題に影響する  
LaPlante DA et al:Disordered gambling, type of gambling and gambling involvement in the British Gambling Prevalence Survey 2007, Eur J Public Health 21:532(2011)  
鶴岡孝介:データから考えるカジノ解禁、精神科 33:533(2018)

10

## アメリカ カジノからの距離と依存症率

距離 (マイル)	参加度 (過去一年)	常連 (週二回以上)	問題ギャンブラー
0~10	77.7%	11.2%	5.5%
10~20	77.8%	10.0%	5.3%
20~30	78.9%	10.4%	3.5%
30~40	74.4%	4.5%	2.0%
40~50	74.3%	8.4%	2.1%
50~	72.2%	7.5%	2.9%

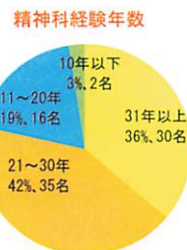
カジノからの距離が近いほど依存率が高く、問題ギャンブラーも多い

Weite JH,et al:Gambling and Problem Gambling in the United States, Changes Between (1999,2013)

11

## ギャンブル依存症に関する 神奈川県精神神経科診療所協会員へのアンケート

期間:2019年10月4日~11月16日  
方法:会員198名にFAX送信、FAXで回答  
回答数:88名(回答率 44%)



### 1ヶ月の受け持ち患者数

351人~ : 56名  
251人~350人: 12名  
151人~250人: 16名  
~150人: 8名

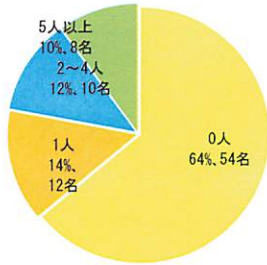
長年精神科医療に携わり、現在も日々多くの患者さんと接している精神科医を対象に行なったアンケートの結果です。

12



ギャンブル依存症に関する  
神奈川県精神神経科診療所協会員へのアンケート

主病名がギャンブル依存症の方の人数



ギャンブル依存症のかたは治療開始、治療継続ができていない：38名  
ギャンブル依存症の治療方法がわからない：48名

13

ギャンブル依存症に関する  
神奈川県精神神経科診療所協会員へのアンケート

精神科の外来には、様々な問題を抱えた患者さんが来院されます。

どのような病状でも継続した治療がとても重要です。

ギャンブル依存症の方は精神科の外来を受診できていません。

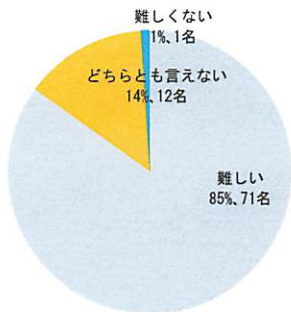
ギャンブル依存症のご本人は病気と思わず、ご家族もご家族だけで悩みを抱え、誰にも相談できず孤立、孤独に追い込まれます。ギャンブル依存症は継続した治療を開始することが難しい病気です。

このため、治療方法がわからないと感じている医師が多いのです。

14

ギャンブル依存症に関する  
神奈川県精神神経科診療所協会員へのアンケート

ギャンブル依存症の治療は



15

ギャンブル依存症に関する  
神奈川県精神神経科診療所協会員へのアンケート

・ギャンブル依存症の方への支援のためは、新たなギャンブル施設を作らないほうがいい：68名(77%)

・横浜市がカジノ施設を誘致・営業すると、ギャンブル依存症の方が増加すると思う：68名(77%)

自由記載より

・ギャンブル依存症は重大な社会問題と思うが、医学・医療では抱えきれない。

・保険診療としてよいか疑問。社会問題なので別予算、自助グループに予算をつけるべき。

・自分をギャンブルにおいつめた配偶者が悪いと主張し、配偶者が自分を責めてうつ状態が悪化したことがあった。

16

ギャンブル依存症に関する  
神奈川県精神神経科診療所協会員へのアンケート

まとめ

ギャンブル依存症は、ご本人、ご家族、ご友人を不幸にしてしまう病気です。

ギャンブル依存症への最善の対策はギャンブル施設を新たにつくらないことではないでしょうか。

17

他の医療関係団体との協力

横浜市医師会

日本精神神経科診療所協会

神奈川県保険医協会

横浜市産婦人科医会

神奈川県精神保健福祉士協会

日本精神科看護協会神奈川県支部

神奈川県作業療法士会

千葉県精神神経科診療所協会

千葉県精神科病院協会

ほか

18

### カジノ誘致中止要請書(署名)

期 間：2019年9月14日～11月30日

取組団体：横浜市精神科医会

神奈川県精神科病院協会

神奈川県精神神経科診療所協会

神奈川県精神保健福祉士協会

日本精神科看護協会神奈川県支部

神奈川県作業療法士会

対 象：誘致反対に賛同する

医療従事者、患者、家族ら

神奈川県内を中心に近県も

19

### カジノ誘致中止要請書 署名趣旨(一部)

**ギャンブル依存症の増加につながるカジノを含む施設(IR施設)を横浜に誘致しないでください**

カジノはギャンブル依存症(病的賭博)におよぼす影響が指摘されており、カジノのある地域にはこの病気の患者が増えるというデータがあります。ギャンブル依存症は、ひとたび発症すれば治療は容易でなく、本人のみならず、ご家族の生活や人生にも重大な悪影響を及ぼす病気であり、2017年の厚労省研究班の推計によれば、ギャンブル依存症疑いの人は既に全国で320万人とのことです。

私たちは、神奈川県内で精神医療に従事し、ギャンブル依存症の深刻な実態を直接知る立場から、患者さんとそのご家族、医療関係者、本趣旨に賛同下さるすべての方々と共に、横浜へのカジノ誘致に反対します。

20

### カジノ中止要請署名集計

2019年12月20日現在

		2019年12月20日現在											小計	合計
		医師	看護師	リハビリスタッフ 作業療法士 理学療法士	福祉士 ソーシャルワーカー	公認心理師	心理士	介護関係スタッフ	薬剤師	他の医療スタッフ	患者さんほか			
神奈川県精神神経科診療所協会	県内	180	426	58	68	395	27	56	33	37	3583	4863	5351	
	県外	63	47	5	1	12	8	1		3	348	488		
神奈川県精神科病院協会	県内	47	870	93	100	118	23	49	38	62	319	1719	1851	
	県外	15	21	3	5	7	12	1	1	6	61	132		
神奈川県精神保健福祉士協会	県内	9	35	43	8	3	2	2	3		171	276	308	
	県外		2	5		1				1	23	32		
その他	県内	38	115	10	4	68	4	7	18	38	111	413	458	
	県外	4	2		1		6			2	30	45		
千葉県精神科病院協会	県外	29	250	35	60	37	10	101	6	22	222	772	772	
		385	1768	252	247	641	92	217	99	171	4868	8740	8740	

21

### 横浜市長、横浜市政策局政策部政策課へ 横浜市へのIR誘致にともなう問題についての質問状

(要旨)

2019年10月15日

横浜市精神科医会長 神奈川県精神科病院協会会長 神奈川県精神神経科診療所協会会長

- 1、カジノによりギャンブル依存患者が増えるのではないかと?
- 2、現状のギャンブル依存症治療・対策は充分なものと考えるか? 横浜市としての取り組みを考えているか?
- 3、横浜市独自の依存症治療・予防対策を考えているか?
- 4、市内精神科医療機関が推計2.4万人のギャンブル依存者を支えられると考えているのか?
- 5、自殺を増やさない最善の方法は新たなギャンブル施設を造らないことだと思うが、その新設は自殺対策に逆行しないのか?
- 6、市民や子どもがつどう山下公園に地続きの山下ふ頭にカジノができる違和感はないのか?

22

### 横浜市長、横浜市都市整備局IR推進課からの回答

(要旨とコメント 文責:赤塚)

2019年11月27日

- ・これまで発表された内容以上のものはない
- ・経済面でのカジノの必要性の訴えが主である
- ・依存症対策(予防)については、IR整備法以上のことは述べられていない
- ・依存症に取り組んでいる医療機関は少ないことは把握しており、横浜市立大学に研究・人材育成を任せつつもりのようである
- ・市は、IRは全世代が楽しめる施設と考えており、今の山下公園、氷川丸、港の見える丘公園などの落ち着いた環境とカジノが並立することに違和感がないようである
- ・自殺が増という懸念に対しては何も答えていない

23

### 私たち精神科医が言いたいこと

ギャンブル依存症の**最大の予防はギャンブルの機会を増やさないこと**である。

ギャンブルであるカジノができれば、当然のことながらギャンブルに接しやすくなり、ギャンブル依存症が増える可能性が高まる。

私たち精神科医は、ギャンブル依存症に悩む患者や家族をこれ以上増やしたくない。

だから、横浜市に**カジノ(IR施設)を誘致することに反対**する。

24

問い合わせ先

一般社団法人 神奈川県精神神経科診療所協会

〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-9-22-314

TEL : 045-312-8989 FAX : 045-323-0765

E-mail : [info@shinseisin.gr.jp](mailto:info@shinseisin.gr.jp)